

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【書 写】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	<p>(1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」で示された学習のポイントをもとに「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で学習し、「振り返ろう」で説明させることで、学習内容を焦点化して学びを進められる工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「生活に広げよう」では、日常生活の文字を手書きする具体的な場面を通して、書写学習で身に付けた力の生かし方を話し合う活動を設定する工夫が見られる。</p> <p>(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、説明の文言を文節で改行したり、小学校で学習していない漢字には初出箇所にルビを付けたりすることで、全ての生徒への支援となる工夫が見られる。</p> <p>(4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、計6単元設けられた「生活に広げよう」では、国語や他教科で扱う言語活動や題材を教材化したり、その内容と連動するように巻末の「書写活用ブック」を構成したりすることで、手書き文字について学んだことを他の学習と関連付けて合科的に学習しながら実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P20</p> <p>1年 P22</p> <p>1年 P26</p> <p>1年 P36, 37</p>
15 三省堂	<p>(1) 単元の構成に関しては、各教材に「書き方を学ぼう」を設けて具体的な字形例とともに示されたポイントを学習し、単元末の「書いて身につけよう」において、学習内容を硬筆や日常生活に生かすことができる工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年末教材の「やってみよう」での新聞や情報誌の制作において、これまでの学習を生かした作品を作り上げるためのグループ活動を設定する工夫が見られる。</p> <p>(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、学年や学習内容ごとにアイコンや色を変えたり、区切り線や囲い線をつけたりするなど、全ての生徒が見やすく学びやすいレイアウトとなるよう工夫が見られる。</p> <p>(4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、各学年の学習のまとめにおいて「やってみよう」と題して1年間の学びを学校生活に生かせる具体的な課題を設定したり、巻末の「資料編」に「日常の書式」と題して社会生活に役立つ知識の要点をまとめたりして手書き文字について学んだことを実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P26, P28</p> <p>1年 P44</p> <p>1年 P42～P47</p> <p>1年 P44, 45</p>

17 教育出版	<p>(1) 単元の構成に関しては、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の4段階での学習手順となっており、各毛筆教材の導入「試し書き」において、硬筆で書かせることで毛筆と硬筆の学びをつなぐ工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」の「考えよう」において、課題解決的な学習や話し合い活動を通した学び方を示し、自らの課題意識や話し合いの活性化を促す工夫が見られる。</p> <p>(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、淡い色使いをベースにAB判で作られており、大きな紙面で作品等を見ることができ、文字や作品により注目して学習することができるという工夫が見られる。</p> <p>(4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、巻頭の「目的に合わせて書こう」で書写学習と実生活との関連が一目で分かるように示したり、単元構成を「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」で学んだ後に学習や日常生活に生かすという流れに統一したりして、学習に見通しをもち、手書き文字について学んだことを実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P20</p> <p>1年 P10</p> <p>1年 P18～20</p> <p>1年 P30, 31 P32～35</p>
38 光村図書出版	<p>(1) 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階の学習過程となっており、「学びのカギ」において、学習のポイントを説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を確認しながら学習できる工夫が見られる。</p> <p>(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各毛筆教材の「考えよう」において自ら課題を発見させたり、「コラム」において文字に関する様々な問いについて話し合う活動を設定したりする工夫が見られる。</p> <p>(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、行書の特徴をアイコンで示したり、毛筆手本の半紙の右端に朱墨・薄墨で点画を示したりして、筆使いのポイントを理解しやすくする工夫が見られる。</p> <p>(4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、各学年に国語の学習内容と関連した教材を設定した上で、第3学年の初めに「手書きのよさって、何だろう」と題して手書きの価値を改めて考える教材を設定したり、別冊「書写ブック」で知識・技能の要点を復習できるようにしたりして、手書き文字について学んだことを定着させながら実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。</p>	<p>1年 P40</p> <p>1年 P58 P48</p> <p>1年 P52 P56, 57 別冊 P12～13</p> <p>3年 P88, 89 別冊</p>